

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200112		
法人名	医療法人富士たちばなクリニック		
事業所名	グループホーム涼風の家		
所在地	群馬県高崎市倉淵町水沼字上相間131-1番地		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山々で囲まれ、近くには公園や温泉施設があり、自然豊かな環境の中に当グループホームはある。職員は、利用者の個々を尊重し、一人ひとりの持っている力を引き出す取り組みとして、昔作った料理を利用者に教えていただきながら一緒に作ったり、家庭菜園の作り方や収穫と一緒に楽しみ、取り組んでいる。また、日常の散歩や年間行事として行っている「涼風祭(夏祭り)」や、「涼風新年会」などの行事を通して、地域の方々や家族、ボランティアの方たちとの繋がりを大切に、笑顔の絶えないホーム作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、「地域の方々と支え合い」の理念を常に念頭に置き、地域との繋がりを年々広げ、地域の方々との支え合い、自然に恵まれ住み慣れた環境の中で最期を迎えられるよう地域に根差した運営に取り組んでいる。地域との交流を深めるため、事業所内の行事である新年会や納涼祭・忘年会等には地域の方々を招待し、忘年会では地元の方がもち米や臼・杵を持参し餅つきが行われたり、地域の方が近くの日帰り温泉利用後に立ち寄り、地域のお茶の先生が抹茶会を開かれたりしている。また、入居者は各地区で開催される「いきいきサロン」や「ウグイスサロン」に参加して友人や知人と語り、農家の人に家庭菜園の栽培管理の指導を受ける等の交流も深めている。法人の理事長は、職員の意見や提案を活かした運営に努め、地元の要請による「共用型デイサービス」の設置についても「地域の方に貢献するよう」快諾するなどホームの意見を尊重した取り組みがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と支え合い、個々が生き生きと生活できる笑顔の絶えない明るいホームを理念に掲げ、玄関及び事務所に掲示し、毎朝の申し送り、カンファレンス時に唱和を行い職員全員が理念を念頭に置きながら、入居者へケアが出来るよう心がけている。	月1回のカンファレンスや申し送りで理念を唱和し、意識付けを図っている。また、理念にある「笑顔」を対入居者のみならず家族や外部の方・職員同士にも絶やすことなく、サービスの基本として理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や町の行事等に参加している。日常の散歩や園芸等、入居者と共に挨拶や話をし、気軽に立ち寄って頂けるよう声かけを行っている。中学校や高校の職場体験や実習の受け入れも行っており、地域交流を深めるきっかけになっている。	理念に「地域」の文言を入れてからは特に地域との繋がりを大切にして実践に繋げている。職員は道路清掃に参加している。入居者は地域の祭りを見物したり、「ふれあいサロン」で地域の方達と健康体操等を行ったりしている。また、地域の方が近くの日帰り温泉利用後に立ち寄り、お茶の先生が抹茶会を開いてくれたり、年末には地元の方がもち米や臼・杵を持参し餅つきをしたりする等地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きなものとして、年に2回、夏祭りと新年会を行い、地域の方々や家族を招待し、入居者と触れ合って頂くことで理解・支援を頂いている。また、清掃活動や地域の行事等でも、積極的に参加し、情報交換をすることで内部の様子を知って頂く等の取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の状況報告や地域交流の報告を行うとともに、行政や地区の代表者から意見や情報を頂き、普段の生活御中に取り入れるよう努めている。また、運営推進会議の報告書は、ホーム内の玄関に掲示・ファイルし、面会に来られた家族や来客者にも見て頂けるようになっている。	会議は、原則として偶数月の最終木曜日に開催し、利用状況や行事報告等を行っている。地域のニーズを受け、昼間家族が不在となる高齢者の受け入れにより在宅での暮らしが継続できる「共用型デイサービス」の併設が話し合われ、設置に向け取り組み中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や案内状を届ける際などに、支所の職員や社協の職員と意見交換や情報を共有している。	地域からの要請に基づき、地域の方々に貢献できる「共用型デイサービス」の設置について頻りに相談し指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の内側扉にアラームはつけてあるが、施錠を含め、身体拘束はおこなっていない。	入居者の自由な暮らしを奪うことのないよう布団に鈴を付ける等の工夫をしながら身体拘束をしないケアを実践している。また、精神薬の服用についても身体拘束の一環として捉え、医師の指導のもとに状態を見ながら最小限に抑え、自らトイレに行き字が書けるようになる等抑圧感の払拭に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払	日ごろのケアの中で、職員の言葉遣いなどをお互いに注意し合い、カンファレンス時には、意識統一をするために話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者はいないが、勉強会や研修に参加し、必要な知識を得、深めることは必要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に一度見学に来て頂き、契約の説明や施設の環境などを見て頂いた上で不安等ないか利用者・家族と面談し、納得したうえで後日契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置するほか、面会時などに職員側から積極的に尋ねるように努めている。また、地域の方から聞こえてきた小さな意見でも、申し送りノートに残し、会議等で話し合いを行えるように努めている。	職員に気兼ねする家族の心情を考慮し、面会は遅くとも早くとも何時でもよいと伝えている。家族の希望を受け、できるだけ古い行事写真も廊下に掲示したり、入居者していること不安を払拭するため、職員のアイデアをもとにA4判の写真アルバムを作成し妹に贈る等、家族の意見や要望を活かした取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案があったら、すぐに対応し、話し合いを重ね、職員一人ひとりの考えを尊重するように努めている。月に1回話し合いの場としてカンファレンスと開催している。	月1回のカンファレンスや日々の業務の中で職員は管理者に自由に意見を言える環境が築かれ、職員の意見を取り入れて、家庭菜園の設置や日々の記録のあり方を検討したりしている。また、法人の理事長は、職員の意見や提案を活かした運営に努め、地元からの要請に基づく「共用型デイサービス」の設置についても、地域の方に貢献するよう快諾するなどホームの意見を尊重した取り組みがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各部署を訪問した際や、職員の意識調査などにより、一人ひとりのスタッフの状況把握に努め、的確な対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に必要と認められる研修の受講を促したり、法人内での研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネ会への参加等、他の施設の同業者との話し合いの場を設け、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来て頂いた時に面接をし、本人が困っていることや不安がないか等を確認している。入居時だけに限らず、個別で面接を行い安心して過ごせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時やイベント参加時など、意見・要望を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。その他に玄関に意見箱を設置し、不安・要望等がないかを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接を行い、どんな支援を必要としているかを聞き、支援に繋げていくとともに、入居前に使っていたサービスや前のケアマネなどに情報提供して頂き、本人や家族が求めているサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の知らないことは入居者に教えて頂き、入居者にできないことは職員が、と言うように、日々互いに助け・支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年末年始・お盆の外泊などを勧めている。また、納涼祭や新年会を行う際、気軽に参加して頂き家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に積極的に参加している。家族・友人が気軽に寄れるような場所を目指している。	地域のいきいきサロンに参加して、顔見知りの方々と一緒にマジックショーや手打ちそばを楽しんでいる。また、地域の「やまなみ祭り」に参加したり、水沼神社祭りで水沼獅子舞を見物したりするなど、これまでと変わらない生活ができるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員会議において、入居者同士の関係性や状況を話し合い、支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、退居された方(ご家族)に連絡をとり、気軽に立ち寄って頂けるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞いたり行動・言動などから真意を推測し、カンファレンスなどで本人が何を求めているか検討している。	本人の率直な気持ちが聴けるよう1対1で対応できる居室や入浴時・夜勤帯に声かけを行い、意向や希望の把握に努めている。また、生活歴を把握し、言動や表情を見逃さないように努め、くつ下が欲しい等の要望にはすぐに買い物に出かける等の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の日常会話の中から生活環境や暮らし方を伺い少しでも同じような生活ができるように努めている。また、サマリーや今までの記録、以前のサービス利用していた事業所に連絡をとり、情報が少しでも多く集められるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日10時ころにバイタル測定を行い、体調管理をしている。できるだけ記録を細かく書き、小さな変化でも見逃さないように申し送りを行っている。また、生活パターンも個人差があるため、その人にあった過ごし方ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1回モニタリングを行っている。必要に応じて担当者介護を開き、家族や職員、本人の意見を聞き、本人の望むサービスが提供できるよう介護計画を作成している。	家族の意向や職員の気づきは、日々の申し送りノートに記録し、月1回開催されるカンファレンスで話し合い介護計画に反映している。また、個人記録簿の最初の頁に介護計画を綴り、日々の介護が計画に沿って具体的に記録できるよう職員間で検討を重ね支援している。モニタリングは短期目標に合わせ3ヶ月毎に行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りなどで日々の様子を確認し、それを踏まえたうえでカンファレンスで話し合いをし、職員全体が把握することでケアを統一できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が忙しくて受診にいけない時には、家族に代わり受診の付き添い・対応を行っている。その他、利用者が買い物へ行きたいときは買い物の付き添いをしており、本人や家族の希望を可能な限り受け入れ、サービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者になじみのある方や、ボランティア、消防、警察などの協力のもと、安全の保持に努め、楽しい生活空間を維持できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医のある入居者に対しては、適切な医療が随時受けられるよう状況の報告を行っている。また、協力医師が主治医の利用者に対しては、月1回の往診を実施するほか、入居者の体調に応じて主治医に連絡をとり、支持を仰ぐよう努めている。	かかりつけ医の受診は原則家族対応であるが、状況により職員が同行している。なお、かかりつけ医に受診している入居者も希望すれば月1回往診している協力医の診察を受けることができる。受診結果は電話で家族に報告し、職員は申し送りノートに記録し情報を共有している。救急搬送時は、具体的に記録されたサマリーが持参できるよう記録のあり方を検討し、適切な治療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった時には、職場内の看護師に連絡し、医師より指示及び受診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は、管理者や職員が病院を訪問し、状態確認や情報交換・把握に努め、早期退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく過程において、家族や協力医との話し合い・相談を随時実施、具体的なケア方策を検討している。終末期ケアの対象者が出た場合は、本人にとって望む最期を迎えられるよう、法人内の老人健康施設等への移動も含め、支援方法も検討している。	重度化や終末期を迎えた時は、医療行為を伴わない場合には個々のケースにあわせ家族や協力医と話し合い具体的なケア方策を検討し事業所に対応していくこととしている。医療行為を伴う場合には、入院や系列の老人保健施設への移動を入居時に家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等のマニュアルを制作している。他にも、AED講習や法人内の勉強会にも参加し、急変及び事故発生に備えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練において、夜間想定を含め、避難訓練を行っているが、地域との協力体制については、現在、民生委員、区長、隣保班長、地元消防団等に依頼することを運営推進会議で話し合い、実現に向けて話し合いを進めている。	年2回の防災訓練の内1回は夜間を想定した避難訓練を行い、消防署の指導のもとに消火器の使用方法や通報訓練を行っている。災害対策として非常用持ち出し袋を備え、缶詰等の非常食を食料庫に保存している。なお、今後は地域の方達にも訓練に参加して頂くよう検討している。	地域の方達にも訓練に参加して頂き、入居者が避難できるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方にあった話し方をしていいる。排泄や入浴誘導時は、他の利用者様に聞こえないように配慮し、親しみがありながら、失礼のないような声掛けを心掛けている。	丁寧な言葉を基本にしているが、入居者が地元言葉で話しかけた時は気分を害さないことを基本に距離を感じさせないよう地元の言葉で対応している。また、トイレ誘導は「トイレ」の言葉を使わず、他の入居者から離れた場所まで誘導し言葉かけを行うよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で多くの会話をすることで、本人の思いや希望を聞けるよう努めている。食事などでは、バイキングや外食の日を設けたりし、食べたいものを本人に選んで食べていただけるような工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きながら、散歩や買い物等、楽しい一日が送れるように支援している。また、入居者の希望や意見を尊重し、個々の身体レベルにあった対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着たりすることがないよう、利用者本人と相談しながら服を選んだり、2か月に1回出張美容に来てもらい、好きな髪形に出来るよう支援している。また、どこかへ出かける時などは、外出着を着てもらい、身だしなみにも変化をつけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の要望を取り入れた献立を考え、入居者の能力を見極め、出来ることは本人にやって頂くが、職員と一緒に食事の準備や片づけをしている。また、盛り付けや使う食器にも工夫をしている。	地元産の野菜等を販売する直売所から食材を購入し、配達された食材から入居者の希望を取り入れた調理を行っている。入居者は野菜の皮むきやいんげんの筋取りなどの下拵え、あるいは配膳や食器洗い等を行っている。また、釣り堀で釣ったますを食べたり、すしを握ったり、餅つきをしたり等食事を楽しむ取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定を行い、全身状態の確認を行っている。また、その人にあった適切な食事量を提供できるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。目立っている方は見守りをおこない、出来ない方は、出来ない部分を介助している。口腔状態を確認、観察し、異常があるときは歯科受診を促している。(家族が対応できない時には、施設対応)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間ともに排泄が自立できるよう排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう、その人にあったトイレ時間に誘導している。	カンファレンスの話し合いをもとに、個々の状況に応じて布パンツやパットを使用し、排泄時間を把握して適時適切にトイレ誘導を行うことにより、あたり前のことがあたり前にできるようトイレでの排泄に取り組んでいる。布パンツは家族に購入してもらい、途中経過や結果報告書を毎月発行する新聞に添えて送付している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と水分摂取、食物繊維を多く取れるよう気をつけている。また、片麻痺や全介助の方でも、オムツやパット内ではなく、トイレでの排泄が行えるよう、トイレ誘導を行い、ADLの向上に向けて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回入浴している。本人の体調や気分に合わせて、入浴日や時間の変更などは本人の意思決定を尊重し、時間などの工夫を行っている。	週3回の入浴は、入居者の気持ちを尊重し無理強いすることなく夕方までの時間帯に自由に入浴できるよう支援している。希望により一番風呂や仲の良い人同士で入浴したり、若い頃の話や歌をうたう等、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休息したいときに居室で休んでいる。また、少し休んだり、他入居者と話がしたいなどの希望がある方には、ソファや談話コーナー(こたつ)を使っていたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテやサマリーに内服情報が載っているため、職員は確認し、情報の把握に努めている。また、症状が変化したときは医師に報告し、内服が変わった時には全職員がわかるように申し送りに記入をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の職業や生活環境を踏まえて、畑仕事や家事など、それぞれが張り合いを感じる役割分担を行い、ホームでの生活を楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントに積極的に参加できるよう、地域の方々にも協力していただき、支援につなげている。また、外出するときは本人に決めていただいている。	季節の良い時には近くの公園を1日2回散歩したり、玄関先のベンチで外気浴をしたり、家庭菜園の野菜を収穫したりしている。また、個別の買い物や食材の購入に職員と共に出かけたり、祭り見物や釣り堀で楽しんだりしている。時には、家族と温泉や外食に行く等家族の協力を得ながら外出支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、本人が希望する者を購入したり、外出先で使えるように支援している。支払いについては、個々に応じて、支払いができる方にはいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族の負担にならない程度に連絡をしたり、手紙の代筆を行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターに季節の花を植え、窓の下には花壇を作り、ウッドデッキの下の畑には季節毎の花が咲くようになっており、入居者の気分転換につながっている。また、共用場所に行事の写真を掲示したり、テーブルに花を生けたり、工夫を凝らしている。	季節を感じられるようウッドデッキでバーベキューやお茶会をしたり、居間には雛人形が飾られ、花が活けられている。調理室には、入居者も使い易いよう調理台や流しが配置されている。居間や廊下の壁にはコメント付きで行事の写真が時系列的に掲示され、訪れる人達に話題を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が孤立しないように、食事の席を変えたり、ソファやこたつでゆったり談話出来る場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、本人が使いやすいようにベッドの場所やテーブルの場所などを決めている。また、家族等の面会時の写真を居室に貼ったりし、本人が落ち着いて、気持ちよく過ごせるよう工夫している。	居室には、炬燵や椅子などの家具・大正琴や縫いぐるみ・愛読書が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。また、ベッドは家族や本人と相談し配置される等落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーの作りになっており、廊下や居室等に危険なものを置かないような環境作りに努めている。介助はセルフケアを基本とし、出来る限り自立した生活が送れるよう支援している。		